

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立汐田小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

〒441-8087

愛知県豊橋市牟呂町北汐田50番地の1

E-mail http://www.shiota-e.toyohashi.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 244名 女子 209名 合計 453名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「つながろう！汐田の自然や人～関わる 伝える つながる～」を活動テーマとして、ESDを自分たちの住む町の自然や人、ものとの「つながり」について学習を深め、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育活動であると捉え、ESDの実践を通して、汐田の自然や人、ものに積極的に関わって問題解決に取り組む力の育成を目標とした。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間に位置づけ、さらに教材のつながりを考え、以下の計画・実践を行っている。

①多様な世代・身近な地域とのつながり～「昔遊び」「まち探検」～

②家庭・地域とのつながり～「ごみや水と環境について」～

③人とのつながりを取り入れた参加体験型学習～「福祉体験活動」～

問題の発見・探究・解決の過程で、児童自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身につけ、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるように配慮していく。

① 汐田に生活する人々とつながる活動（多様な世代・身近な地域とのつながり）

- ・ 老人会の方々による「昔遊び」伝授の会と給食交流会
- ・ 「まち探検」で会社や工場、お店の人との交流 など

地域の特色を知るとともに、そこに暮らす人々と関わる活動を通して、人々とのつながりと地域とのつながりに気づき、地域への愛着心を育む。

② 家庭や地域とつながる環境美化活動（家庭・地域とのつながり）

- ・ 家庭でのごみや水問題について考え、ごみの減量や水を大切にする
- ・ 自主的に活動する毎週1回のボランティアタイムを使った環境美化活動

他人に指示されなくても一人のできるボランティア活動で美化意識を育て、さらに協力して取り組む素晴らしさを感じ取らせ、人々のつながりを考えさせる。

③ 思いやりの心を育てる福祉体験活動（人々のつながりを取り入れた参加体験型学習）

- ・ 福祉実践教室（高齢者疑似体験、アイマスクによるガイドヘルプ・車いす・点字体験）
- ・ デイサービスセンターとの交流活動

お年寄りや障害をもった方々と関わることで、障害者福祉に興味関心をもち、心を伝え、つながることができるようにさせる。



①の写真



②の写真



③の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・「小学校キャリア教育の手引き」	文科省 (WEB版)
・「かがやくとよはし」(社会3・4年生補助教材)	豊橋市教育委員会発行
・「明るい心6年」(道徳副読本)	愛知県教育振興会発行
・「ともに生きる！～障害のある人の暮らしから」	豊橋市社会福祉協議会企画制作
・「福祉教室ガイド～学ぼう身近な福祉～」	豊橋市社会福祉協議会発行

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDを確実に推進するために、ESDカレンダーの作成に取り組んだ。具体的には、教育課程を見直し、地域に密着した学習を系統的に行うと共に、「自然や人とのつながり」を多く取り入れた参加体験型学習を展開し、地域との「つながり」を図りながら、いろいろな立場や世代の人々との「つながり」を体験できるように年間指導計画を編成し直した。

6年生では、人のつながりをテーマに「福祉体験活動」に重点を置いて、下記のような「ESDカレンダー」を作成して取り組んでいる。

・汐田小「6年生のESDカレンダー」(教材のつながり：テーマ＜人のつながり＞)

教科 領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
国語	「風切るつばさ」 ・人とのつながり				「海のいのち」 ・人権尊重			「ヒロシマのうた」 ・人間の尊厳		
社会	「日本の歴史」 ・故郷「汐田」を愛する				「城下町吉田(豊橋市)」			「世界の中の日本」 ・人としての生き方		
道徳	「おばあちゃんの 探し物」 ・感謝、家族愛		「学校いのちの日」 「おじいちゃんの命」 ・生命の尊重		「山をたのむ」 ・尊敬・感謝		「人権週間」 「二つの投書」 ・思いやり・親切			
総合	「共に生きる①」 ・デイサービス訪問				「共に生きる②」 ・福祉体験教室			「共に生きる③」 ・実践発表会		
行事 特活	「運動会」		「汐田コミュニティ スクール」		「修学旅行」		「学習発表会」 ・協力、団結 ・助け合い ・公共心 ・成果の発表			

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

毎年ESDカレンダー、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し、身につけたい能力・態度の評価基準の作成と見直し、児童の意識調査を継続的に実施してESDの学校評価を蓄積していく。
また、学校内だけでなく、地域の方や中学生、保護者の方を招いた行事を恒例化する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

教師は、ふだんの生活の中で児童の学習態度や意欲を観察し、活動後児童が書き込んだ「振り返りカード」等によって、評価している。それとともに、以下のような評価方法をとる。

- ・児童の様々な活動への成果を、事後のまとめや感想などから把握する。
- ・学習や活動のまとめとして、授業公開や夏休み作品展、学習発表会等での成果の発表や地域への発信を通して、関心・意欲・態度等を観察し、評価する。

- ・全児童が定期的に行う「生活（いじめ）アンケート」やデイサービスセンター利用者の声から、児童の取り組み状況や意識の高まり、交流成果を把握する。

上記の評価とともに、ESDのさらなる充実と推進を図るために、以下のことに取り組む。

- ・1月の「学校評価アンケート」（保護者・児童・教職員対象）で、自分が住む地域のよさ、誇りと愛着、自然環境等の関係性、他人との関係性、社会との関係性について、意識がどのように変化したかアンケートを実施し、結果と考察を公表する。

- ・学校評議員の評価や意見、児童の実態や地域の思いをもとに、ESDカレンダーを見直し、地域と連携・協働する教育活動を展開する。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

具体的には、4年生の活動で、家庭や地域とつながる環境美化活動がある。ごみを減量するために家庭でできることを実践したり、水を大切にしているために自分たちにできることを実践したりする。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

具体的には、低学年は、汐田に生活する人々とつながる活動がある。地域に生活する人々と交流することで、心のつながりを深める活動をする。1年生は、「昔遊び」を教えていただいたお礼として給食交流や学習発表会への招待状を書いている。2年生は、「まち探検」をして、校区にある会社や工場・病院を訪ね、自分の思いを伝えて、働く人々の思いを聞いて、人と地域とのつながりに気づく活動をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

牟呂校区・牟呂小学校・牟呂中学校合同防災訓練が毎年１１月に行われる。地域の消防団の方や中学生が先生となって、消火訓練やけが人の救護訓練など行い、地域の繋がりを深めるとともに、防災への知識も深めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

新しいことに取り組んでいくことがＥＳＤを活性化するのではなく、学校生活の中で、今までやってきた教育活動すべてがＥＳＤに繋がるということを忘れないことが大切である。持続可能な教育活動であるかを見直し、地域の方や保護者の方との恒例行事になっていくことで、参加する児童や教師、学校外の方の知識が深まっている。今後も続けていきたい。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

牟呂八幡社祭礼、地域の幼保との交流会、様々な出前授業（ユニバーサルデザインや豊橋の祭、創作ダンスなど）、汐田コミュニティースクール、学校保健委員会、中島下水処理場見学、農業体験学習、Ｊアラート行動訓練、校区合同防災訓練、人権講話、昔遊びの会などを行う予定である。毎年恒例になっているものが多く、地域とのつながりを来年度も深め、続けていく。